

子供たちに生きる力を



皆勤賞ももらった佐々木くん。



「もう終わってしまうのは残念」という佐藤くん。



最後の曲でポーズを決める本多さん。



熱心に指導する菅原さん。

ると「曲げわっぱ太鼓」と答えてくれました。「終わってしまうのはとっても残念」で、第2弾ヒップホップがあれば、また参加したい」と大好評のヒップホップ講座でした。講師の菅原さんは、この達人講座だけでなく、学社連携事業の一環として、中学校のヒップホップ授業や小学校の正課クラブも受け持っています。

両手をそろえて「あいさつ

もう1つの講座は、日本舞踊講座です。講師は麗扇会代表の木村麗子さん（日景町2区）で、開催場所は釈迦内児童センター。

授業が終わると、子供たちは「だいま」と言って次々に児童センターへ入って来ます。それに笑顔で応じる木村さん。

「子供たちは、浴衣を着るのが楽しみで、それだけで満足なんです。本格的な踊りよりも、子供たちが楽しいと思って踊ることが大切だと思います。何年かして、あの時にこんなことをやって楽しかったなあと思いついてもらえれば。ただ、始めと終わりのあいさつだけはきちんとしたい」と話してくださいました。その約束どおり、両手をそろえての「あいさつ」は、新鮮でかわいらしく感じまし

た。「さくらさくら」の曲に合わせて、優しくしなやかに踊る子供たちが印象的でした。

羽沢菜都美さん（釈迦内小2年）は「難しいけれど、楽しい」と浴衣姿のかわいらしい笑顔で話してくださいました。またお母さんは「通わせて本当によかった。我が子の意外な一面を見ることができてうれしい。月に2回、いえ毎週でもお願いしたいくらい」と話してくださいました。

地域の元気な姿

取材を通じ、ボランティアで教えてくださる地域のかたのおかげで、子供たちがなかなかできない経験を、手軽に体験できることはすばらしいと感じました。きつと大館にはまだまだたくさんの方々がいるはず！そして、未来の達人になり得る子供たちも育つていきます。学区を超えて、親子の交流が図れるとともに、子供たちが楽しく意欲的に取り組めた経験が、未来に生きないはずがありません。教育委員会の佐藤社会教育主事のお話からもそのようなことを感じましたし、これらの活動がまちづくり、ひとつづくりにつながるといふことも納得できました。何よりそこには、地域の元気な姿が期待